石櫻新聞

第1面
進学状況
入学式

第2面
クラブ紹介
連載記事

平成13年4月19日発行
第111号
発行　岩手高等学校
盛岡市長田町
印刷　山口北州印刷㈱

県立大の合格者が増える

―平成12年度大学進学状況―

平成十二年度の大学進学状況をお知らせする。大学の名前と合格者数（）内は浪人を挙げる。国公立大では、岩手大学に6（1）名、岩手県立大学に6名、が合格した。その他の国公立大学に関しては表を参考にしていただきたい。主な私立大学では、岩手医科大学に4（1）名、盛岡大学に7名、東北学院大学に13（2）名、日本大学に6（1）名、同志社大学に1名が合格した。他の有名大学にも多数合格している。今年は例年に比べて県立大学の合格者が多く、健闘した年だった。

【三E中田勇樹】

平成12年度大学・短大合格者一覧

平成13年3月23日現在

大学名	学部	学科	現役生	卒業生
弘前大	理工	知能機械システム	1	
岩手大	工	応用化学		1
		機械工	2	
		情報システム	1	
		電気電子工	2	
福島大	経済	経済	1	
筑波大	大3学部	工学基礎学類		1
横浜国立	経営	経営システム科学		1
鹿屋体育大	体育	体育スポーツ	1	
青森青森公立大	経営経済	経営経済	1	
岩手県立大	総合政策	総合政策	1	
	社会福祉	福祉臨床	1	
	ソフトウェア情報	ソフトウェア情報	4	
都留文化大	文	社会	1	
		国・公立大学計	16	3
札幌大	経営	経営	3	
札幌学院大	法	法律	1	
	経済	経済	1	
	商		1	
函館大	商	商	1	
北海道工大	工	情報デザイン	2	
北海道情報大	経営情報	情報	1	
	情報メディア	情報メディア	2	
北海道東海大	工	海洋環境	1	
千歳科学技術大学	光科	光応用システム	1	
		北海道私大計	14	0
青森大	経営	経営	1	
	社会	社会福祉	1	
八戸工業大	工	建築工	1	
		機械情報技術	1	
		機械工	1	
		電気電子工	1	
		システム情報工	2	
青森中央学院大	法	経営法	1	
岩手医科大	医	医	1	
	歯	歯	2	1
富士大	経済	経済	4	
	経済	経営法	1	
盛岡大	文	英米文	4	
		児童教育	2	
		日本文	1	
石巻専修大	経営	経営	4	
	理工	生物生産工	2	
仙台大	体育	健康福祉	1	
東北学院大	法	法律	2	
	経済	経済	1	
		経営	2	
	工	応用物理	1	
		機械工	1	
		電気工	1	2
		土木工	3	
東北工業大	工	建築	1	
		通信工	1	1
		電子工	1	
		環境情報		1
		土木工	1	
東北文化学園大	医療福祉	保健福祉	1	
秋田経済大	法	法律	1	
	経済	経済	4	
奥羽大	文	英語英文	1	
	歯	歯	1	
白鷗大	経営	経営	1	
		東北私大計	54	6

大学名	学部	学科	現役生	卒業生
城西大		経営	1	
		経済	2	
聖学院大	文	児童		1
東京国際大	商		1	
	国際関係	国際関係	1	1
国際武道大	体育	武道	1	
千葉商科大	商経	経済	1	
学習院大	理工	物理		1
北里大	水産	水産生物	1	
	獣医	動物資源		1
工学院大	工II	電気電子情報工	1	
専修大	経済	経済	1	
大東文化大	経営	経営		1
高千穂商科大	商	商	1	
拓殖大	工	機械システム	1	
帝京大	文	国際文化		1
	法	法律	1	
	経済	経済	1	
東京経済大	経済	経済	1	
東京工科大	工	機械制御	2	
		情報工	1	
東京農大	地域環境	森林総合	1	
東京理科大	経営	経営		1
二松学舎大	国際政経	国際政経	2	
日本大	文理	社会	1	
	工	情報工	1	
	理工	情報工	1	
		電気工	1	
		航空宇宙工		1
	生産工	管理工	1	
法政大	経済	経済	1	
明治大	農	生命科学		1
明星大	理工	物理		1
立正大	経営	経営	1	
	仏教	仏教	1	
神奈川大	経営	国際経営	2	
	経済	経済		1
関東学院大	経済	経営		1
東京工芸大	工	画像工	1	
		関東私大	32	12
北陸大	法	政治	1	
山梨学院大	商	商	1	
日本福祉大	情報社会	情報社会	1	
京都学園大	法	法律	3	
同志社大	法	法律	1	
熊谷大	経済	経済		1
	社会	社会		1
甲子園大	栄養	栄養	1	
高知工科大	工	知能機械システム	1	
		関東以西私大	9	2
秋田職業能力開発短大		電子技術	1	
東北大医療技術短大		診療放射線技術	1	
岩手県立大学短期大		国際文化		1
岩手県立産業技術短大		メカトロニクス	1	
		電子技術	3	
		情報技術		1
岩手看護短期大		看護	1	
秋田美工短		工芸美術	1	
会津大短大		産業デザイン	1	
高岡短大		産業造形	1	
拓殖大学北海道短大	園芸	環境農	1	
国新館短大	国大		1	
		短期大学	12	2
		合格者総数	137	25

入学式

高校二一四名　中学九名

四月九日に、第五十六回の高校入学式が行われました。

新入生は、二百十四名でした。

今年の新入生は、二十一世紀になって初めての新入生です。新世紀の岩手高校をよりよい方向へひっぱっていってほしいものです。

新入生に向けて、校長の菊地先生から「高校は人間形成の場だ。有意義で悔いの無い高校生活を送るように」という言葉が贈られました。

岡本PTA副会長からは継続は力なり、という訓辞をいただきました。

小枝指同窓会副会長は、不撓不屈（ふとうふくつ）という言葉を出され、先輩には、高橋克彦氏のように東北の魂を描き続けるなどして、活躍されている方々がいる、ということを話してくださいました。

新入生代表の布台容君が宣誓文を読みました。

七日は、中学の入学式が行われました。

校長先生は、次のようなたとえを話されました。馬を水辺に連れていくことは出来る。しかし、水を飲ませることは出来ない。勉強する環境は学校で整備するが、勉強は自分でするしかない、ということでした。

小枝指同窓会副会長は、覚えなければならない文字や体力作りの話をなさいました。

木内PTA会長は、中学生時代にブラスバンド部で活動した思い出を語られ、楽しい中学生活にしてください、と新入生を激励しました。

今年、成人式などの大切な席での若者のマナーの悪さが取り上げられました。しかし、今年の新入生の態度はおおむね立派で、しっかりやるぞという決意が感じられました。これからも我々の期待を裏切らずに励んでほしいものです。

【三C中村武】

見よなくちゃ！！ろしく！！

3月の目標

2月中の目標は『ゴミのポイ捨てをなくそう！』でしたが、期末テストなどがありあまり呼びかけなどを行うことができませんでしたので今月も引き続きこの目標にしたいと思います。前に各クラス委員長に集まってもらって、これと似た用紙を配布したのですが前文で申しましたように、あまり効果を上げることができませんでしたので、再度現状況を報告したいと思います。現状況は学校に不要のゴミが落ちていたり、目のつかないところにゴミがある等、相も変わらずといったところです。

3月は非常に短いですが、同時に新学年として入学生をお互いに気持ちよく迎え入れられるように、気合いを入れていきましょしょい!!

執行委員では目標を達成するために昼休みの巡回や放送での呼びかけを予定しています。生徒のみなさんのご協力お願いします。

【生徒会執行部　3年E組阿部潤】

後期生徒会執行部　活動内容

後期生徒会執行部は、生徒会長の阿部潤君を中心にして、いくつかの活動を行なってきました。主な活動内容は、地球市民フォーラムへの参加、ゴミのポイ捨てをなくす運動の推進などです。

地球市民フォーラムは、これまでより大きなボランティア活動をするために、執行部から三名が参加しました。コミュニケーションの大切さや、環境問題、世界の感染症などについて学んできました。

また、「ゴミのポイ捨てをなくそう」をスローガンに、執行部全員で、意識啓発のポスターなどを作り、放送でも呼び掛けました。

さらに、卒業生を送る予餞会では、映画「逆噴射家族」の上映や、♪明日があるさ（坂本九バージョン）の合唱を行いました。「逆噴射家族」は、いろいろと物議を醸すマンガ家・小林よしのりの原案で、彼の作品「東大一直線」や彼の祖父的人物の要素も見られました。なお、「逆噴射」とは、昔、話題になった言葉で、今で言えば「逆ギレ」のようなものでしょうか。卒業生も生まれる前の昭和57年2月、羽田沖で、心身症と認定されることになる機長が離陸したばかりの飛行機を逆噴射させ、墜落させる事件が起こりました。そして、心の影響が身体の病気となって現れる「心身症」と突発的な行動だった「逆噴射」という言葉が注目されたそうです。映画は、逆噴射後の一家が新天地で暮らす様子で終わり、安心させてくれました。♪明日があるさは、他のバージョンが出回る前だったこともあり、オリジナルでの合唱となりました。オリジナルの坂本九バージョンは、曲の転調が高揚感を生んでいくところが強く、卒業生を激励するのにふさわしいものでした。このように、予餞会は、さまざまな反響を呼んで、成功を収めました。

今期の生徒会執行部の大方は、四月下旬の改選を経て、今年九月まで活動を行うものと思われます。

ここまでの活動が順調なのに加えて、最近始めた校内放送も軌道に乗せて欲しいと思います。

【三E下田岳司】

視点　石割桜

外もだんだん暖かくなって、最近はポカポカ陽気で眠くなってしまいます。入学式、始業式も終わり、いよいよ新年度がスタートしました。▼新入生は新しい制服を着ながら、まだ慣れていない学校生活を送っています。高校三年生は、我が岩手中高校を引っ張る者となり、高校生活最後の年を一生懸命にスタートしました。また、受験生としての自覚を持ち、毎日、自分の進路に向けて頑張っています。二年生は、本校を引っ張る三年生をアシストしながら、そろそろ本格的に進路に向けての準備をしています。今年度はさらに岩手中高校の発展に努めていきたいものです。▼さて、話は変わりますが、ニュースでは、毎日、交通事故が報告されます。春になり、身も心も浮かれてしまいますが、気をつけなければなりません。▼今年は西暦二千一年。つまり二十一世紀最初の年です。マンガではもう、車は、タイヤが無く（奇妙な表現だ）、全く排出ガスのないものが動いているはずでした。まあ、新世紀の最初の年からそうなるとは思いませんが。それでも、科学はますます発展していきます。その代わりに、自然がどんどん失われてきた気がします。現在もさまざまな環境問題があります。二十一世紀はそうした問題を改善し、もっと自然を大切にしていこう、私たちで努めていきたいと思います。

【三F昆祐貴也】

クラブ紹介

第16回

バレーボール部

バレーボール部は部員が三年生14名、二年生2名、一年生数名で日々活動している。岩手高校のバレー部は、あまり知られていないが、毎回、県大会へ出場し、ベスト16～ベスト8という好成績を収めている。

普段は、キャプテンが練習のメニューを考えているという。大会前には、フォーメーション練習をして、調子を整えるのだそうだ。

県ベスト8に入る！

練習にはあまり顔をお出しにならないが、部員のた皆はバレーボールを体育でしかしていないと思うが、体育のバレーボールと部活動はレベルが違う。スパイクの速さはかなりのもので、レシーブ、トスの正確さは、さすがバレーボール部と思わせるほどだ。

皆はバレーボールを体育でしかしていないと思うが、体育のバレーボールと部活動はレベルが違う。スパイクの速さはかなりのもので、レシーブ、トスの正確さは、さすがバレーボール部と思わせるほどだ。

顧問の伊藤先生

めに精一杯力を貸してくれる顧問の伊藤先生は、バレーボールの経験が無かったのに、部員のためにいろいろとしてくださっている。

部長の小野寺君は次のように語る。"部員の平均身長はそれほど高くはないが、拾って繋ぐバレーで県大会ベスト8をねらっていきたい。"

最後になったが、近頃のバレー部はだんだん力をつけてきている。三年生の引退までの時間は短いが、これからの大会で頑張っていってほしいと思う。これからバレー部は目が離せない存在となりそうだ。

部員名簿

三年生
佐々木　翔
佐々木　圭
都鳥　真生
桜井　尊
小野寺　琢文
細谷　聡彦
田村　規行
久保　陽平
武田　伸也
千葉　将隆
阿部　雄司
及川　源太
佐々木　祐二
小山田　晃

二年生
櫛引　真人
吉田　秀宣

【編集部】

英会話部

英会話部のメンバー

NHKスキットコンテスト　第3部門（自由スキットの部）小笠原・田中・小田

島が、「番組講師奨励賞」を受賞。二年連続、全国上位レベルに入賞。

昨年十月に英会話部が応募した「英語スキットコンテスト第3部門（自由スキット）」の結果が三月末に発表された。

本校からは、今年三月に卒業した小笠原正顕君、田中裕也君、小田島聡志君の三人（チーム名"Just For Laughing"）が「番組講師奨励賞」を受賞した。

このコンテストは、NHKラジオ「基礎英語」主催のもので、中高生だけでなく、幼稚園から、大人まで年齢を問わない、一般公募のものである。全国で三百四十九のチームが参加した中、上位入賞を果たした。

日常の何気ない会話をテーマにし、英語を使ったオリジナルの短い劇（スキット）を作成、更にそれを発音・アクセントに留意しながらテープに録音し、送るのである。聴取者のイメージをかき立てるような表現力が問われる。

入賞作品の題名は、"Half an Intersection"「分かれ道で」だった。

小笠原君から、「自分達が、精一杯の実力で臨み、それが賞を得るという形になった事が嬉しいです。有難うございました。」という一言が寄せられた。

中学卒業式で部活動優秀賞

三月二十四日に中学の卒業式が行われました。そこで、近藤祐佑君がスキー部、布台容君がテニス部の活動が認められ、部活動優秀賞を授与されました。

新連載

受験生日記

第一弾!!

岩手高校にこの春三年生となった菊池英一（仮名）という生徒がいる。

彼は、ソフトテニス部に所属していて、一年生、二年生の間は、部活動のある日はもちろん、ない日も自主練習するとても真面目な性格であった。大会での成績がよい方だった彼だが、大きな悩みを抱えていた。

それは、受験、である。今まではそれほど気にしていなかったのだが、二年生最後の模擬試験がよくなかったため、三者面談で先生から、「菊池君、もっと頑張っていこう」と言われたのだ。彼は、大学進学を目指していたのでショックを受け、毎日三十分程度しか勉強していなかった菊池君は、その日から、少しずつ時間を増やしていこう、と心に決めた。

まず彼は、家での自由な時間を見直し、勉強時間を増やした。そして、勉強の出来る人からコツを教えてもらった。本屋へ行って参考書も買ってきた。このような様々な環境整備の努力をするようになった。こうして頑張っていかなければ大学合格は難しい、と痛感しているのだ。

まだ時間があると思っていてはだめだ、そのことを彼は強く感じていた。

<つゞく>

【三F高橋慶】

好評連載

壊れる十七歳

③ 自身の心の闇

昨年、我々高校生の年代の犯罪が次々に報道された。主婦の殺害経験を実行した愛知県の高三生、バスジャックし客を殺傷した佐賀県の少年、母親を撲殺した岡山県の野球部員、新宿区のビデオ店に爆弾を投げ込んだ栃木県の高二生。彼らは事件当時、十七歳で、この年齢は壊れているのではないか、といわれるようになった。本校出版委員会も、いわゆる壊れる十七歳を重大な問題として取り上げ、これまでに二回の考察をしてきている。

第一回（本紙第百八号）では、事件を起こした少年が全く反省していないように見えたことから、自分は少年法により守られるはずだ、という意識があるのではないか、と考えた。

第二回（本紙第百十号）では、犯罪までに至る少年の家庭は教育力が不足しているのではないか、と考えた。

今回は、少年自身の心について考えてみる。

最近とどまることを知らない中高生（の年代）の犯罪。

その原因は、主に家庭にあり、家族とコミュニケーションをとる時間が持たれずに子どものストレスが慢性的に溜まっていく、といわれている。

しかし、本当にその多くは家庭に原因があるのだろうか。

今の中高生の生活を見ていると、他人に対する感謝の気持ちなどが完全に麻痺している、と感じる。手伝ってもらって当たり前。自分が面白くなければ他人に当たる。こうしたねじれた考えが見られる。また、親への敬意も忘れられているのではないか。親を敬愛できず、話し合って自身のストレスを解消することもしない。その結果、自分の感情を無関係の他人にぶつけてしまう。ぶつけられた者もまた同様の事をしていけば、悪循環である。

犯罪にまで至った者の多くが、心に闇を抱えていたという。心の闇は、家族や他人とのふとした事からも生じる。ただ、犯罪にまで至るのは、自身のねじれた考えのせいだということも忘れてはならない。

〈読者みなさんからの意見を募集しています。〉

【三C小原秀暁】

新連載 ―― 第二弾

最近のニュースから

ハワイ沖実習船事故

二月に起こったアメリカの原子力潜水艦と日本の実習船・えひめ丸との衝突事故について、思ったことを述べていく。

まず、なぜ潜水艦の中に民間人を乗せ、しかも、彼らに操縦させていたのか。このことが自分は一番気になった。（やり過ぎたサービスだったらしい）。

また、何かのテレビ番組で、この事件が報道されたとき、アメリカ人たちはインタビューに対して、アメリカ側は遺族にもう充分に謝罪をしている、と語っていた。

しかし、事故の当事者らが遺族の前に出て謝罪したのは、ずっと後になってからのことだった。どうして、艦長は事故の後すぐに謝罪できなかったのか。この事故は、百パーセント潜水艦の側に責任があるといわれているのに、と自分は思った。（訴訟がからむにしても、紛れもない非はすぐ認めてほしい）。

それから、遺族が強く望んでいる、えひめ丸の引き上げをすべきだと思う。金がかかるとか、遺族への謝罪は済ませたからもういいじゃないかとか、アメリカ人たちは語っていた。しかし、遺族が望むことをするのが、今のアメリカにとって、一番の謝罪なのではないか、と思った。

最後に、事故のあった時に、ゴルフをしていて、対応のまずさを指摘された森総理は、どんなことを思っていたのだろうか。この総理は、自分のことしか考えていないのか、と思った。

【三D大塚義幸】